

令和7年度第1回綾歌地区認知症・在宅ケア推進研修会（8月27日実施）

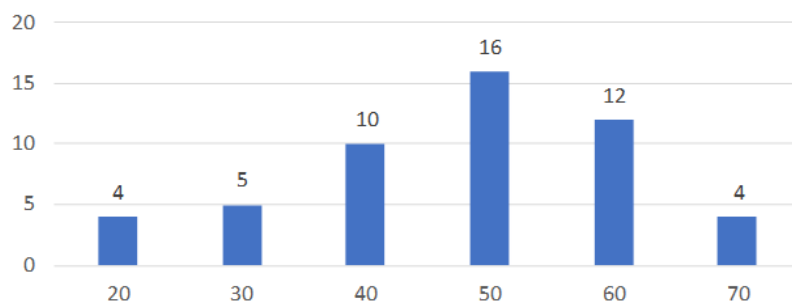
本人の視点を大切にすること、つまり、主役は本人であることに立ち返り、本人に「伺う」、そして「待つ」ことから「自立へ」とつながっている患者さんの生き生きとした姿を現場の多くの映像を通して伝えてくださり、大きな学びになりました。

「動き出しは本人から」という視点は、すべての対人関係に必要だと思いました。また、医師として診療するときにもたいへん参考になり、有意義な研修会でした。

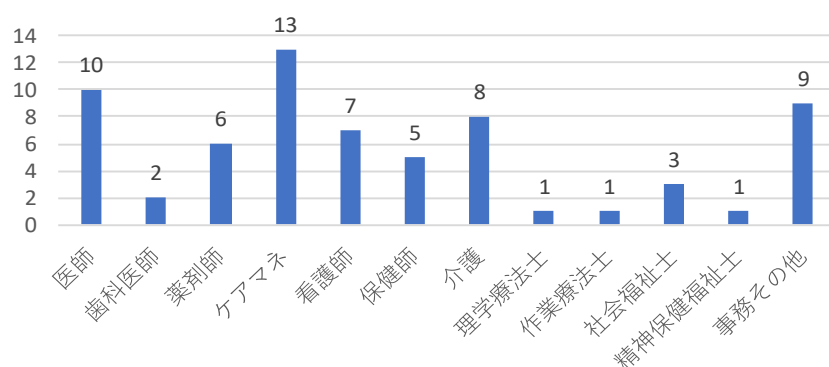


1. 開催日 令和7年8月27日（水）19：00～20：30
2. 会場 国保総合保健施設綾南 えがお 2階 多目的研修室
3. 講演会 演題「動き出しは本人からー動き出しに気づくことができれば介護が変わるー」
 - ・座長 滝宮総合病院 副院長 進藤徳久先生
 - ・講師 (株)StartMovement 代表取締役 大堀具視先生
4. 参加者 66名
5. アンケート結果（回収率 51名/66名 77.3%）

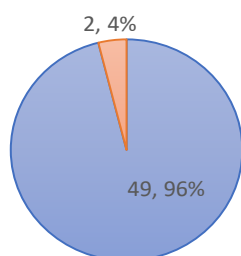
参加人数（人） n = 51



職種別参加者数（人） n = 66

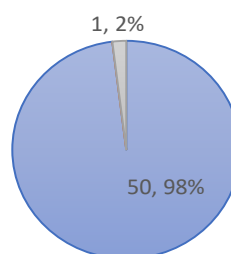


役に立ったか



■役に立つ ■空白

動き出しに眼を向けるか？



■はい ■いいえ ■どちらでもない

番号	感想
1	医師として診療するときにも今日の講演は大変参考になりました。
2	「動き出し」や本人のタイミングの大切さに今さらながらに気づかされました。
3	伺う、待つ、動き出しを見るということを覚えておきたい。本人の状況と気持ちを見誤らないようにしたい。
4	自立と介助のバランスを改めて考えさせられました。できるという意味を否定せず、コミュニケーションをとる方法も勉強になりました。

5	私たち支援者側が利用者さんのできることをできなくさせていたのだと気づくことができました。
6	「待つ」ということができていないと反省しました。自分でできたときの笑顔を見て、私も笑顔になりました。
7	動けないと思いこんで手を出し過ぎている場面がたくさんあります。目の前の方の思いや考えにきちんと向き合うことが大切だと感じました。
8	大堀先生の人柄もあり、たいへん聞きやすくわかりやすかったです。介護だけでなく、様々な人とのかかわりの中でついつい支援者や周囲の意向で進めがちですが、まず本人さんに伺うこと、どの場面でも大切だなあと感じました。
9	「認知症」「要介護〇〇」が本人の名前ではない。その言葉に影響されてはいけないということが印象的でした。「協力動作」という言葉、変ですね？なるほどと思いました。
10	コミュニケーションの「間」を大切に、待つことが大切だと思います。忙しい時にどうしてもこちらのペースで進めようとする介護にならないように気づかされました。